

科目名	母性看護学特講 I			分野・必選別・単位数	専門科目 (リプロダクティブヘルス・ライツ看護学)		選択必修	2単位
担当教員	◎教授 梶原祥子						科目ナンバー	T2C109
課程	博士前期	配当年次	1年	配当学期	前期	授業方法	講義	
授業の概要	授業は、学生が自主的に発表、討論を行いながら、母性看護学の変遷と歴史を概観し、リプロダクティブヘルス・ライツの理解を深めていく。また、母性・助産領域関連の理論や概念から、具体的な看護援助および看護研究の方法について探求する。							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>母性看護学の変遷と歴史について説明できる。</li> <li>母性・助産の概念について説明できる。</li> <li>母子保健活動の現状と課題について説明できる。</li> <li>各自のテーマに関する文献学習および母性・助産領域における課題についてプレゼンテーションを実施することができる。</li> </ul>							
授業計画	回数	担当者			行動目標			
	1	梶原 祥子	教授	科目概説 授業の目的、内容、方法等について理解し、今後の授業に向けた自己の計画を立案できる。				
	2	梶原 祥子	教授	母性看護学の変遷と歴史について説明できる。				
	3	梶原 祥子	教授	母性看護学の変遷と歴史について説明できる。				
	4	梶原 祥子	教授	母性・助産領域に関連する理論について説明できる。 (ヘルスプロモーション理論、母親役割理論、母子相互作用、家族システム理論等)				
	5	梶原 祥子	教授	母性・助産領域に関連する理論について説明できる。 (ヘルスプロモーション理論、母親役割理論、母子相互作用、家族システム理論等)				
	6	梶原 祥子	教授	母性・助産領域の概念について説明できる。 (母子保健、リプロダクティブヘルス・ライツ、家族関係、生涯発達、ジェンダー等)				
	7	梶原 祥子	教授	母性・助産領域の概念について説明できる。 (母子保健、リプロダクティブヘルス・ライツ、家族関係、生涯発達、ジェンダー等)				
	8	梶原 祥子	教授	母子保健活動の現状と課題について説明できる。 社会(日本と世界の現状)の在りようについて評価することができる。 健やか親子21報告書、母性領域における統計資料等について分析し評価することができる。				
	9	梶原 祥子	教授	母子保健活動の現状と課題について説明できる。 社会(日本と世界の現状)の在りようについて評価することができる。 健やか親子22報告書、母性領域における統計資料等について分析し評価することができる。				
	10	梶原 祥子	教授	周産期ケアと諸問題 出産の意味について考え、助産外来、院内助産、助産ケアとEBMについて概説できる。				
	11	梶原 祥子	教授	周産期ケアと諸問題 出産の意味について考え、助産外来、院内助産、助産ケアとEBMについて概説できる。				
	12	梶原 祥子	教授	個々のテーマを決め、文献学習・プレゼンテーションを実施できる。 母性・助産領域における各自の問題意識を基に今後の課題を報告できる。				
	13	梶原 祥子	教授	個々のテーマを決め、文献学習・プレゼンテーションを実施できる。 母性・助産領域における各自の問題意識を基に今後の課題を報告できる。				
	14	梶原 祥子	教授	個々のテーマを決め、文献学習・プレゼンテーションを実施できる。 母性・助産領域における各自の問題意識を基に今後の課題を報告できる。				
15	梶原 祥子	教授	授業を振り返り自己の評価を行う。 母性・助産領域における各自の問題意識を基に今後の課題を報告できる。					
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	次回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。また、討議に積極的に参加できるように、授業内容に関連した新しい知見について調べてくる。						
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、参考書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。						
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要である。						
教科書	特に定めない。							
参考書	必要に応じて、適時提示する。							
成績評価の方法および基準	プレゼンテーションを含むレポート50%、毎回の討議への貢献度50%により評価する。							
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。							